

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

- 1 . 講 師 徳島大学大学院 名誉教授 坂東 永一
- 2 . 演 題 咬合学を発展させるために
- 3 . 日 時 平成24年11月8日(木)
17時00分 ~ 18時30分
- 4 . 場 所 歯学部特別講堂(歯科棟南4階)
- 5 . 内 容

咬合治療により顎口腔系のみならず全身の健康状態が改善・増進したという報告は多いが、咬合が果たした役割を明確にすることは容易でない。その理由の一つに咬合状態を客観的かつ定量的に測定・記録する方法が、確立していないことがある。歯列咬合面形態の立体データを6自由度顎運動に基づいてコンピュータ内で運動させ、上下の咬合面間距離を計算して表示することで動的な咬合を可視化できる。

顎機能制御系や主機能部位など、咬合状態によって顎運動は無意識に変化するが、咬合可視化装置が普及すれば、顎運動を制御している脳機能の解明に繋がると期待している。

咀嚼の第4相ならびに第5相において顎関節に加わる力を解析できる、顎運動データに基づいたモデルについても紹介したい。

連絡先 摂食機能保存学分野 三浦 宏之(岡田 大蔵)(内線 5521)